

長野市公文書館便り



●発行日：平成24年（2012年）7月27日 ●発行：長野市公文書館



日里公園（旧日里村役場跡）。写真の土蔵の中に旧役場文書は保管されていた。



土蔵に保管された旧役場文書。段ボールに入ったものやそのまま棚に置かれたものもあった。



専門主事が2階建ての土蔵に保管された旧役場文書を懐中電灯で照らしながら調査した。ネズミが巣食っており、被害を受けた文書もあった。

4月から旧中条村役場文書の移管・整理を始めました。役場文書は、中条村の前身の一つである旧日里村の役場跡に保管されていました。そのうち、

山里の土蔵に眠る 旧役場文書を調査・移管

当館へ移管した文書は、明治10年代から平成3年まで2000点を超えます。現在、これらの文書は、年内の公開に向けて整理しています。

長野県職員が当館を視察

長野県総務部情報公開・私学課の職員3人が6月6日、当館を視察しました。長野県の文書管理に役立てたいとのことでした。



当館書庫を視察する長野県職員

施設開設に向けて当館見学

小布施町では、公文書館の機能を持つ施設の開設に向けて取組を始められています。その一環として5月11日、



専門主事の説明を聞きながら視察する小布施町の皆さん。書庫の他、作業場も視察し、当館職員へ積極的に質問していました。

新たに公開した文書です。

古文書	文書名	年代	公開日	点数	特徴
	横澤瑛文書	昭和	3月18日	2	昭和22年2月の長野市街図・長野県バス路線図がある。
	西澤安彦文書	大正～昭和	4月25日	12	大東亜戦争割引国庫債券(昭和17年)などがある。
	池田昌繁文書	(近世)～昭和	6月11日	35	若槻田子の明治28年作成の字図が7枚ある。
	土屋文治文書	近世～明治	6月17日	9	岩草村(七二会)が天明飢饉に際し困窮したことを示す資料がある。

日々是文書

スタツフ通信

長野市非現用文書を移管

平成23年度末廃棄の長野市非現用文書の調査・一次選択を実施し、このほど移管しました。

県史料協総会・研修会

6月27日

中野市で開催された長野県史料保存活用連絡協議会総会・研修会に当館職員2人が参加しました。

長野市公文書館

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内(〒380-0801)
 電話 026-232-8050 FAX 026-232-8051
 HP http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/
 又は 長野市公文書館 で検索

開館時間 午前9時～午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)
 休館日 土曜日・国民の祝日法に規定する休日・年末年始(12月29日～1月3日)

こんなときにはご相談ください。

- 古い土蔵などを取り壊すので所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- 所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。

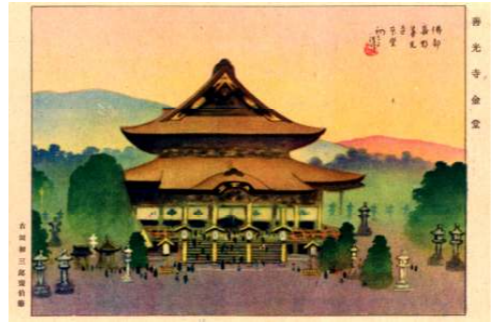


長野市中央通の夜

収蔵資料から

「善光寺開帳と平和博覧会記念絵はがき」

吉田初三郎が描いた 善光寺とその界限



①長野市中央通の夜 優しい明かりが門前の通りを浮かび上がらせる。戦争が終わり平和の明かりがともったと画家は言いたかったのだろうか。②絵はがきを包んだ封筒 吉田はここでも博覧会場を明るくイルミネーションで包み込んだ。裏面に鳥瞰図で会場を案内③善光寺金堂(本堂) ④長野近郊温泉情緒 (若林勲滋氏寄贈)



②(表)



②(裏)



④

■吉田初三郎■明治17年(1884)京都市生まれ。友禪の圖案工などを経て洋画家を志し関西美術院長の鹿子木孟郎に入門するが、師の勧めで商業美術に転向。大正2年(1913)に刊行された京阪電車の沿線案内図が、修学旅行で石清水八幡宮を訪れた皇太子(昭和天皇)の賞賛を受け、この頃からパノラマ風の観光案内図の製作を手掛けるようになった。左右の端をU字型に曲げ、大胆なデフォルメを施したその独特の構図は「初三郎式鳥瞰図」と呼ばれ、その後の鳥瞰図技法に大きな影響を与えた。昭和30年(1955)没

絵はがき人気は 日露戦争に始まる

明治33年(1900)、郵便法が制定され私製絵はがきの使用が認められました。そして、その直後に勃発した日露戦争の戦勝記念絵はがきが一大ブームとなり、全国で絵はがき専門店が次々に開店し、絵はがきが庶民の間に浸透します。

専門店では、風景絵はがきや写真絵はがきなど様々な絵柄やデザインのものも販売され、中でも美人絵はがきは、プロマイドとして人気がありました。美人画で一世を風靡した竹久夢二が大正3年(1914)に開いた「港屋絵草紙店」(日本橋呉服町)が大繁盛するなどはその一例といえるでしょう。

ここで取り上げた絵はがきは、

昭和24年(1949)4月、戦後の平和・復興と産業発展を目的に開催された長野平和博覧会(同時に戦争で中断した御開帳も行われた)を記念して発行された絵はがきセットです。情緒あふれる風景画は、「大正の広重」と呼ばれた吉田初三郎によるものです。

絵はがきは5枚一組で、これを包装する封筒には表に「善光寺開帳と平和博覧会記念絵はがき」の表題とイルミネーションに輝く博覧会場夜の夜景、裏面には吉田が得意とする鳥瞰図が描かれています。

博覧会の記録をまとめた『長野平和博覧会誌』(昭和25年・長野市役所発行)によると、この絵はがきセットは1万部が印刷され、好評を博したといえます。